

業界に一石を投じる「公開」という建築コンセプト。

ゼロホームは、2002年10月より、「公開」をコンセプトに掲げています。「クレーム産業」「隠蔽体質」とも言われる建築業界において、お客様ご自身に正しく選択し、判断していただくためには、つくり手側が自ら全てを公開し、現場づくり、品質づくりについて常に真摯な態度で取り組んでいくことが重要と考えているからです。

この「公開」への取り組みにより、厳しいチェック体制がフルに機能し、関わるスタッフの、クレームを少しでも減らす、雨漏りを絶対に起こさせないといった強い気持ちにつながっているのは言うまでもありません。間違いのない家づくりのためには、「公開」は必要不可欠な要素なのです。



ゼロホームの建築現場はいつも公開しています。また、HP上にて、クレームの記録やお客様アンケートの原紙もそのまま公開しています。

京都のまちなかに貢献する、
いくつもの新しい街づくり。

ゼロホームは、まちなかでの住宅づくりで培った技術と実績を礎に、京都だからこそ、京都ならではの新しい街づくりに数々取り組んできました。

8名の建築家が同じ分譲地内の建売住宅をデザインした「北大路まちなか住宅コラボレーション」、行政機関と連携して地域コミュニティの創造に取り組んだ「太秦藤ヶ森・まちなみ住宅設計コンペ」、戸建て住宅でありながら区分所有法で街並みを守る「戸建て型区分所有分譲」の街づくり。これらの取り組みは、プロジェクトが終了した後も、京都という特別な街に、次世代への力強い提案を投げかけ続けています。



戸建て型区分所有分譲「東山八坂通」は、一団地認定を受けて実現した、これまでになかった新しい手法の街づくりです。

日本の森のために…
全戸に国産木材を使用。

日本の森はいま、膨大な蓄積量を抱え、手入れされていない放置林が広がっています。木を伐採することは自然破壊と考える方も多いかもしれませんが、山や森が荒廃すると、土砂災害を起こしやすくなるだけでなく、樹齢が長くなった木は二酸化炭素を吸収する働きも低下し、地球温暖化にも貢献しません。森を守るためには、植林し、育て、伐採するサイクルを継続して行うことが大切です。

ゼロホームでは、2012年より、すべての新築住宅の建築において国産材を採用し、日本の森林環境の健全化に貢献しています。



ゼロホームでは、数ある国産材の中から、強度性や意匠性の高さ等により、宮崎県産の杉を採用しています。

“ゼロが成し遂げたこと… そして、続けていくこと”